

海外新聞 第六號

辛未四月廿八日

五十一號



服部文庫
117
88
8



117
88
8



海外新聞四十六號

千八百七十一年第五月廿五日我四月七日橫濱
 刊行ジャツパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

電撰新聞

第四月廿六日我三月七日倫敦ヨリ巴勒攻圍將ニ始
 ラントス○糧食ヲ府中ニ運ヒ入ル・ヲ禁ス○
 南方ノ砦ニ向フテ劇キ炮撃セントノ説アリ今
 宵ハ將ニ劇シキ攻撃アルヘシ
 同月廿八日我三月九日同處ヨリ巴勒ノ周圍ヲ攻撃

海外新聞

四十六

一

ス
第五月一日 我三月 同所ヨリチエール氏カフリ
メーソン會社ヘノ答ニ我ハ和講ヲ欲スレトモ
人民皆一揆党ニ從フヲ欲セスト言送レル由
イツシーノ番兵等大ニ恐怖シ其若將ニ壞レント
ス

第五月二日 我三月 同處ヨリリーウインクスト
ウン氏 有名ナル英人ニテ 亞弗利加ノ内地ヲ探
ハ其身健康ナレモ甚窮困セル由 ○巴勒郭内ニ

今方ニ新ニ一重ノ壁ヲ作ル ○コムミュン党
リュセール氏カ官ヲ補ギ之ヲ捕ヘ復之ヲ放ス
同日同處ヨリビスマルク氏ヨリアルセース及
ヒロルレイレヲモ割キ與ヘンイヲ要ム ○去ル
四月マテ日兵ノ佛ニ留マリシ者ノ賄料ヲ仏ニ
拂ヘリ ○ウエルサイルノ兵轍道ヲ掠奪セリ ○ク
ラマリーイシーノ兩地降ヲ納ル
同月五日 我三月 同所ヨリ共和政治党ヨリ二十
日間ノ休戦ヲ請フ

同月九日^我十日同處ヨリ英亞ノ委任使者南北
部戦争ノ間出テ互ニ侵掠セシ賊船ヲ各其政府
ニテ禁止セサリシ議論ニ付是非ヲ決セシメン
カ爲ニ裁判役各一人ヲ命シタリ○巴勒ノセン
トラール、コムミッシー再ヒ政柄ヲ握ル
第四月十九日^我二十日同處ヨリウエルサイルノ
兵一揆党ノ兵ニ迫リテアスニールヲ明渡サシ
メタリ然レ其後其中ニ入ルニモ非スセイ
河ノ右岸マテ退キ再ヒ之ヲ逐ハス木曜日ニ至

テクランド、チアツチニ於テ一揆党ノ前面ニ在リ
テ兩軍ヲ相隔テタル處ニ陣セリ此時一揆党ノ
死亡甚タ多シト云フ
フリユツセルノ會議ノ全權使者等國境ヲ定メ贖
金ヲ出スヲニ付議論合ハサルヲ以テ和講ノ結
果爲ニ大ニ遲延ス
同月廿日^我三月同處ヨリ水曜日ニハクイル
ウオワート、シユーローノ近傍ニテ終日砲戦アリ○
ウエルサイルノ兵士等ノ説ニ昨日アスニールニ

入リ一揆党ヲ河ノ對岸マテ逐退ケ轍道站舎ニ
砲臺ヲ築キタリトイヘリ○政府ノ兵頻ニ巴勒
ノ南方ニ集マル○火曜日ノ朝イシノ前ニ在
ル塹トクラマノ轍道站舎ヲ攻撃セシカ城兵
ノ為ニ追卻ケラレタリ○コムニユン党ノ者
ウエルサイルノ政府ト講和ヲ勸ムルヲ載セタ
ル四所ノ新聞紙ヲ出板スルヲ禁ス○ブリュッセ
ルノ會議忽チ決定シ普ヨリ仏ノ願出ル所ヲ許
サズル由

第四月廿一日 我三月 同處ヨリ昨日下院ニ於テ
ロウ氏其預ル所ノ會計帳ヲ出セシニ昨一歲中
ノ歳入六千七百六十三万四千ポンドト預メ算
計セシモノ六千九百九十一万五千二百ポンド
ニ及ビ歳出ノ數六千九百四十八万六千ポンド
ト算計セシニ六千九百五十四万八千五百二十
九ポンドニ及ヒタリ又當年ノ歳入ハ今ヨリ計
ルニ六千九百五十九万五千ポンドアルヘシ然
ルニ當年ハ兵改ヲ改革スル事ニ付入用多ケレ

ハ歳出ノ数大約七千二百三十万零八千ポンド
ニ至ルヘシ然レハ此ニ二百七十一万三千ポ
ドノ不足アリ於是會計事務宰相ノ説ニハ之ヲ
補フニハ新ニ速火奴ヲ製スル者ヨリ税ヲ納メ
レメ且遺物ノ税則ヲ改立セハ是ヨリ大抵八十
五万ポンドヲ得ヘシ餘ノ缺乏スル所ハ從來ポ
シドノ何分ト定メタル每家ノ分限税百分ニ何
程ノ割合ト改メ其高ヲ増サハ之ヲ補フニ足ル
ヘシト云ヘリ

右ノ速火奴ヲ製スル者ヨリ税ヲ納ノシムルノ
説ハ二百一人同意ニテ四十四人不同意ナリシ
カ衆議ニ任スルトナリタリ
ニウイリトラワールニ於テ木曜日ニ終日難戦
アリウエルサイルノ兵アスニールニ在ル轍道站
舎ニ陣ス○セイロ城ノ胸壁兩側共ニ壞レタリ
同月廿二日我三月三日同處ヨリ巴勒ヨリノ新聞ニ
コムミュン党ノ者ニウイリニ於テ堡障ヲ再
ヒ奪ヒ返シタルヲ載セタリ○昨日ニウイリ

トクリシノ間ニ久シク劇キ砲戦アリ○四
方ヨリノ攻撃ハ未タ始マラストイヘトモ諸處
ノ報告ニハ皆直ニ始マルヘキヲ載ス又コム
ミューン党ノ方ニテハ戦ノ用意頻リナリ
同月廿三日我三月同處ヨリ巴勒ヨリノ風説ニ
キエル氏城ヲ明渡ス所ノ日耳曼ノ兵ニ五万々
フランクヲ拂フタル由○巴勒ノ周囲ヲ遺ル處
ナク環ミ攻ントス○ウエルサイルノ護國兵已ニ
聖デニスニ在リ○ニウイリリニ於テ土曜日ニ

砲戦アリ其後ハ事無シ
第四月廿四日我三月同處ヨリ日曜日ニ巴勒ニ
於テ砲戦アリシカ勢劇シカラス○ウエルサイ
ルノ兵固クバニコン城ヲ守ル○一個ノ党與ア
リ巴勒ノ囲ヲ解カシメ講和ヲ全ウスルヲ勸メ
ニトス且此党ノ言ニウエルサイルノ總督キエル氏
巴勒ノ自立ヲ許スニ於テハコムミエン党ニモ
其言ヲ所ヲ聽カシメント云ヘリ○日耳曼ノ兵
城寨ヲ退クトイフ風説ハ訛傳ノ由

毎小新聞 四十六 六

第四月廿五日 我三月 同處ヨリビスマルク氏昨
六日 我三月 同處ヨリビスマルク氏昨
日ライヒスタグニ於テ言テ曰ク巴勒ハ講和ノ
議全ク終リ贖金ノ中ヲ始テ拂フ時ニ最早降参
スヘシト
巴勒城前ニ全ク事無シ ○ワンウルイツシニ
岩ノ砲撃尚頻リナリ
昨日工人等群ヲ為シ上下議院ノ前ニ集リ速火
奴ノ税ヲ免サレンコトヲ請ヒ遂ニ争鬪ヲ起セシ
ニ巡兵之ヲ鎮メタリ

昨夜下院ニ於テホワイト氏言ヲ發シテ前ノ税
ヲ重ウスルノ策ヲ批難セシニ與スル者二百三
十人アリ非トスル者二百五十七人アリ議論久
ク決セサリシカ其説遂ニ衆論ノ為ニ排セラレ
タリ
第四月廿六日 我三月 同處ヨリ今日下院ニ於テ
ラウ氏前日案出セル速火奴ヨリ税ヲ納メシム
ルノ説ヲ歇メ次ノ木曜日ニ別案ヲ出スヘキ由
○巴勒ニハ一ノ異変ナシ

同日同處ヨリ巴勒ヨリ北方へ出ル轍道會社ヨリ諸站舎ノ主管ノ方ニ巴勒ノ攻囲已ニ始マリタルニ由リテ糧食ヲ廓中ニ納ルヲ禁スルノ布令ヲ出セリ○周田ヨリ一度劇ク砲撃スヘク殊ニ南方ノ砦ハ手弱ク見ユルヲ以テ其方ニ嚴ク攻挂ルヘキ説頻リニ之アリ然レハ水曜日ノ夜ニハ必ス大戦アルヘシ

同月廿七日我三月八日同處ヨリ下院ニ於テラウ氏遺物ノ税ハ全ク廢シ每家ノ分限税ニ便斯宛

ヲ増シテ前ニ云フ所ノ缺乏ヲ補フヘシトイヘリ

同日巴勒ヨリウエルサイルノ兵ヨリ放ツ所ノ彈丸廓内ニ落チ死傷ノ者甚多シ○一揆党ノ方ニテハ若シ止ムヲ得スンハ中ヨリ火藥ヲ用ニ城壁ヲ破ラント決心セル由

同月廿八日我三月九日倫敦ヨリビスマルク氏ヨリコムミュトン党ニ告テ曰ク若シ巴勒ノ教大長其党ノ為ニ害ヲ被ラハ我之ヲ傍觀セジト

フリーメイソン會社ヨリ其社ノ者ハコムミュ
ニ党ニ與シ其幟ヲ城壁ニ建テタルヲ言出
セリ〔此事疑ハシ〕
同日同處ヨリ巴勒ノ攻撃一般ニ始マリタリ金
曜日ニハ諸方ヨリ砲撃アリ○クリエツセル
氏巴勒ノ教大長及ヒ其屬下ノ僧ヲ許サンコトヲ
言フ
轍道會社ノ者コムミュニ党ヨリ請ハレタル
大金ヲ今日遣セル由

第四月三十日我三月十一日倫敦ヨリ昨終日巴勒ノ西
方ニ於テ砲戦アリ○前ニ言ヘルフリーメイソ
ン會社ノ所為將ニ實地ニ行ハレントス然レハ
其幟モ亦城壁ノ上ニ建ツナルベシ

海夕新開 四七六

死馬ノ説

夫馬ノ人世ニ用アルヤ人皆知ル所ナリ然レモ
其死後尚人ノ用ヲ為ス_トヲ知ル者少シ因テ茲
ニ逐一其事ヲ記載ス
其死スルヤ蛋白ヲ製スル者砂糖ヲ煉ル者鳥糞
ヲ燒ク者直ニ其血ヲ求メ一滴モ空ク棄テス鬃
ト尾トハ毛衣ヲ織リ篩ヲ編ミ弦ヲ紉リ擦子ヲ
植ニ可ク皮ハ韋シテ履履ヲ製_ス馬具ヲ作り頭
環ヲ製ス可ク蹄ハ櫛ヲ造リ角器ヲ製シ膠ヲ取

海夕新開

四七六

十

ル可ク又餹シテ鹿角精ト為ス可ク肉ハ煮テ脂
油ヲ採ル可ク其美ナル處ハ小酒店ニ於テ煮牛
肉ニ代用シ急製羹汁ノ料ニ充ツ可ク剩餘ノ肉
ハ燒テ肥糞ト佐ス可ク諸青酸結合物ヲ製シテ
擬影画師ノ藥料ニ供ス可ク胃腸ハ乾シ糾リ
樂器ノ絃ニ用フ可ク骨ハ鈕釦玩具鍔子刀柄木
尺盃盂骰子毬子等百般ノ器具ヲ製ス可ク其鋸
屑ハ燒テ骨炭トシ亦砂糖ヲ練ル者ノ用ニ供ス
可シ又椎骨ノ或ル部分ハ燒テ白クスル片ハ試

金者ノ試金ノ藥料トナリ其剩餘ハ即過燐酸塩
ニシテ最上ノ糞料ナリ齒牙ハ象牙ニ代用ス可
ク蹄ニ嵌スル鉄鞋ハ鎔シテ上好ノ鉄器ヲ製ス
可ク門ニ釘シテ邪鬼ヲ避ク可シ又骨炭ノ一部
ハ燐ヲ製シテ速火奴ノ藥料ト為ス可ク近世是
ヨリ製セル燐酸塩ヲ加ヘテ蒸餅ノ泡酸ヲ助ク
ルニ用ヒ又勞瘵ヲ治スル妙藥ヲ製ス等其世用
ヲ成スヤ廣且大ト謂フ可シ敗鼓ノ皮尚蓄テ棄
ザル實ニ故有カナ

海外新聞四十六號畢

海外新聞四十七號

千八百七十一年第六月二日我四月十五日橫濱刊
行ヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第五月十七日我三月廿八日新嘉坡シンガポールヨリ電信線ヲ香港
ヘ掛渡サントノ船猶此所ニ滞在シテ未夕發セ
ス且其出帆ノ日限モ未夕定ラス

リユートル氏電信報

第五月九日我三月二十日倫敦ヨリ英米兩國ノ委任官
ヨリ爭論取扱ノ者兩人ヲ命シ抄掠船ノ事件ニ

海外新聞

四十七

一

就キ英國政府ノ之ヲ禁セサリシハ其責ニ任ス
可キ由ノ請ヒヲ吟味セシム

巴勒府ノセントラル、コンミッサーハ復ヒ前時
ノ威推ヲ取レリ諸事以前ニ變ル_レ無シ

同日倫敦ヨリタイムス新聞ニコーペンハーゲ

ンヨリノ電信報ヲ載ス其言ニ普領ノスレスウイ

グヨリ連馬ニ移住スル者ヲ普國ヨリ第五月十

五日我三月廿六日ニ軍役ヲ勤ムル地ニ呼歸ヘセシ_レ

ニ就キ普連ノ間ニ爭論起レリ

ウエルサイルノ軍兵フォルトイッシイヲ降シテ之ニ
據レリ

同月十日我三月廿一日倫敦ヨリ仏普和時ノ條約遂ニ

フランクフォルトニ於テ調印濟メリ巴勒府ノ一

揆党ノ銳氣甚夕沮喪セリ

議事下院へ英吉利國教ヲ廢セントノ建言アリ

シカトモ遂ニ用ヒラレサリキ

第五月十二日我三月廿三日倫敦ヨリ仏普ノ條約ニマ

ルセイルノ軍兵巴勒ヲ降セシ後三十日間ニ五

万々フラング
凡我八夕許リハヲ拂フ可キ旨ヲ約
セリ

英米ノ條約十年間ノ期限ヲ以テ定マレリ但シ
此條約ヲ歇ルニハ此期限ノ前二年ニ預シメ其
告知ヲ為ス可シトノ約ナリ

昨夜英國議事下院ニ於テマクコロトトルレ
ニス氏ノ分限稅ヲ五ペンス
一ペンスハ凡
我七分五厘許ニ定
メントノ建言ニ就テ長キ議論アリコスチエン氏
及ヒクラットストーン氏ハ之ヲ不可トシテ此論

ハ絶テノ貸金ノ事ニ妨ケトナル可シト云フ又
グラットストーン氏ハカヲ極メテ守舊党ヲ非議
スヂスレリ
氏ノ答ヘニ政府ハ困却敗歟セリ
ト云フマクコロトトルレンス氏ノ言ヲ可ト
スル者二百四十九人不可スル者二百九十四人
ノ投票ナルヲ以テ終ニ行ハレス
第五月六日
我三月十七日
ブルツセルヨリ
仙國ノヅニ
ル
フリーブル氏即今和睦談判ノ間ニ起リシ難事
ヲ定メン為メニフラクフォルトニ赴ケリ

同日倫敦ヨリ土耳其ノ都コンスタンチノブル
 ヨリノ報告ニ土帝ヨリ埃及國ノケダフヘ土帝
 ノチャブレインヲ使節トシテ遣セシニ由テ疑
 惑ノ事氷解シテケダフモ速ニコンスタンチノ
 プルヘ赴キ土帝ニ謁シテ自ラ其赤心ヲ表セン
 トス

同日ウエルサイルヨリ今夜イッシイトバーフルト
 ノ間ノ堡砦ニ於テ劇シキ戦アリテ一揆党生擒
 ト為リシ者甚タ多シ巴勒府官ヨリゼ子ラール

ロッセルヲ命シテ總督ト為セリ

天津一件ニ就キ支那ヨリ仏國ヘ使節ニ赴キタ
 ルチユンホウ等ハ空シクウエルサイルニ留滞シテ
 應接ノ事モ無シ方今仏國事務繁擾ナル時ニ當
 テハチエル氏ヨリ天津ノ事件検査ノ掛リ役ヲ
 命スルヲ等ハ必ス其暇無カル可シ

第四月十四日 我二月廿五日倫敦及ヒ支那エキス
 フレックス新聞ヨリ抄譯ス

仏國政府ヨリ巴勒党ヲ攻ルト少シク猶豫セリ
サレトモマルシヤルマクマホン及ヒビ子ラール
ヂユクロシ頻リニ決戦ノ準備ヲ為セリ是ハ往時
ノ戦争ニ生擒トナリシ兵士日耳曼ヨリ縦サレ
帰リテウエルサイルノ軍勢頗ル強大ニ為リシニ由
レリ八日我二月十一日廿二日ニハ巴勒府外處
々ニ戦ヒ有リテ勝敗判然ナラス兩軍各勝利ヲ
護タリト称ス方今巴勒党ノ大将ハ波蘭ノ人ゼ
子ラールドンロークスキナリ○サンデニ

屯スル日耳曼ノ守兵ハ巴勒党ヲ認メテ政府ト
為ストテ許ルサス○巴勒府内ハ變スルト無シ
法師ヲ攻撃スルノ党起リ建々ノ寺院等之カ為
メニ剽掠セラルノトトルタムモ亦其害ヲ受タ
リ外方ノ堡壘ヨリ府内ニ砲發スルト間斷無ク
破裂彈頻リニ街上ニ落来レリ
巴勒府官ヨリ使節ヲテエル氏ニ贈レリテエル氏ヨ
リ巴勒党兵ヲ解キ各郷里ニ歸リ從來ノ法令ヲ
守ル可キヲ約束シ敵對ヲ歇メ一揆徒ノ命ヲ赦

レ且工人等其職業ヲ得ル迄ハ一時之ヲ給助ス
可キヲヲ諭告セリ

日耳曼 仏国政府ニテハ公然ト分捕物ノ裁判
所プライスコウルトヨリ罪ヒレヨリ外日耳曼
ノ船ヲハ盡ク帰ス可キノ約ナリトノ布告アリ
澳地利 水師提督テゼツツフ死去セシ由ナリ
西班牙 洞繪ノ會議當節始マレリ○殖民所事
務宰相ヨリウエストインゲースヲ合衆国ニ賣リ
タリトノ事ハ虚説ナリト布告ス○再ヒシダノ

ルソリヲ殺サント企テレ者アリ

和蘭 養老金預リノ東印度會社ノ金主等仕法
ヲ变革シ之ニ由テ分散ヲ避ントス○痘瘡一般
ニ流行セリ

合衆國 英米兩國ノ委任官ニテ取扱ヒノ事件
ノ決定ニ為ル可キ基本既ニ一致セリ漁獵ノ争
ヒハ決定シアルマタ号船ノ請ヒハ他ノ委任官
ニ依テ定マル可シ○茶及ヒ加噠ノ税ノ廢止ヲ
非トスルノ願書ヲ商議所へ出セリ○議事院ヨ

リ総赦免ノ建議アリ是ハ南北戦争ノ時南党ニ
加ハリタリシ者共官職ニ就ク事等ニ於テ諸般
ノ禁制有リシヲ歇ムルノ議ナリ
南亞米利加 秘魯ニ於テ大洪水アリ諸方ニ水
溢レテ損害死亡頗ル多シ

クローレユト云ヘル新聞紙ニ左件ヲ載セタリ
近頃支那ノ一揆党七千人ウリアスタイト云ヘ
ル所ヲ襲ヒ終ニ之ヲ攻取リタル後魯西亜コニ

レユルノ家ヲ取囲ミ降参スヘシトノヲ迫リタ
リ 諸魯ノコンレユルハ餘程ノ間防戦セシガ終ニ
カ_ラ盡キテ其家ヲ走り出テ艱難辛苦シテ漸ク自
国ニ至ルヲ得タリ然ルニ此事ニ付キ魯国ノ
人民大ニ憤怒シ其新聞紙ニ魯国ハ支那ノ中央
迄其領地ヲ増シ亞細亞東北ノ地方ヲ開キ其貿
易ヲ盛ナラシメントノヲ其國ノ政府ニ促シ
タル由ヲ記シタリ
此事ハ固ヨリ支那一揆ノ為シタルトニシテ固

ヨリ其政府ニテ預リ知ル所ニアラサレトモ魯國ヨリハ之ヲ口實ト為シテ支那政府ニ迫リ東方ニ其領地ヲ廣ム可レ

千八百七十一年第六月七日 我四月廿日 横濱刊
行ヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第五月十五日 我三月廿六日 ウエルサイルヨリ政府ノ軍勢今日フォルトブワノールニ入レリ此地ハ往々一撥党ノ守リ居タル所ナルカ加農砲五十門臼砲八門ヲ遺テ、既ニ引拂ヒタリシトナリ
第五月廿二日 我四月四日 倫敦ヨリ「ウエルサイル」ノ軍八萬人チャト、マエツトヲ降シテアルタドリアシ
ンフヨリ巴勒府内ニ入レリ

毎ト新聞 四二八

支那電信線ヲ新嘉坡ヨリ香港へ本月十九日
四我
日掛ケ始メ昨日午時迄ニ四百四十里ノ間、
電信線首尾能ク成就セリ

千八百七十一年第六月十日 我四月廿三日 横濱刊

行同上新聞ヨリ抄譯ス

アラバマ号艦ノ一件ニ就キ委任官ノ名ヲ署セ
ル盟約ノ基本左ノ如シ

今約定ヲ取極ル双方ニテ左ノ事ヲ許諾ス局外
中立国ノ港ニ於テ支度及ヒ乗込ニ及ヘル船ニ

テ和親国ニ侵掠ヲ為セシ時ハ局外中立国ニテ
其責ニ任ス可シト此條例ヲ以来ノ條約ニ於テ
ハ必ス行フ可ク且今約定スル双方ニテ之ヲ萬
国公法ノ中ニ載スルヲ務ム可シト約定ス此
條例ニ由ルニアラバマ号艦ノ一件ハ米國大紗
領グラントヨリ一人英國女王ヨリ一人^西帝
ヨリ一人^瑞士大紗領ヨリ一人^以太利王ヨリ一
人^擇ヒ出シタル五人ノ委任官ニ託シテ決セシ
ム之ニ由テ委任官等盟約確定ノ後六月ノ内ニ

華盛頓ニ於テ集會ニ及ヒシアラバマ号艦ノ事
件ハ英國總テ其責メニ任シ其損害ヲ償フ可キ
トヲ定メントス結末ノ決定ハ最初ノ集會ヨリ
二年内ニ於テ必ス行フ可ク若シ右五箇国ノ委
任使者ノ一人タリトモ之ヲ許諾スルヲ無ケレ
ハ決定ス可カラス又此委任官ニテ決スルヲ能
ハサルノ事件アレハ更ニ米國大紗領英國女王
魯西亞帝ヨリ各一人ツ、委任官ヲ擇テ最初ノ
委任官ノ決議延引ノ後六箇月ノ内ニ集會ス可

キニ定メリ

海外新聞四十七号 畢

海外新聞四十八號

千八百七十一年第六月廿三日 我五月廿六日 横濱

刊行ジヤッパン、ヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第六月十二日 我四月廿五日 倫敦ヨリ軍制改革ノ議案

ヲ軍務局ヨリ下院ニ達セシ所下院ニテハ專ラ

之レヲ拒絶ス

ヲルレアン家ノ一族ジワンビル并ニドーマ

ール辭職シテ議負ヲ脱ス○佛人議負ノ加人ヲ

選舉スルヲ來月二日 我五月十五日 ニアル可シトゾ

第五月十五日 我三月廿六日 ウェルサイルヨリ今日官軍

一揆ノ引拂ヒタルウァンブル城ニ據リテ大砲五

十門臼砲八門ヲ掠取ス

第五月十一日 我四月三日 倫敦ヨリ一揆党モオンロ

ウシノ周圍ノ諸柵ヲ棄テ遁タリコンミツテ

再ビ軍務ノ權ヲ握ルウェルサイルノ政府ノ議會

ニテ普國トノ和約ヲ取極ルヲ許諾ス

第五月廿二日 我四月四日 倫敦ヨリ八万ノ官軍シヤ

トウ、ミユエトヲ侵掠シアルクドトリヲンフ門ヨ

リ巴勒ニ侵入ス○官軍六百ノ生擒ヲ獲タリ○

普人佛ノ政府ノ議負ヲ選ムニ付キ佛人惣体ノ

投票ヲ要ム

チユイレリイ及ビルウブルノ二宮ハ兵火ニ罹

レリ○諸人日ニ騷動ノ終ルヲ待ツ

アルサスロルライン兩地ノ内ニ此後千八百七

十三年迄普ヨリ別ニ鎮台ヲ置キ其後ハ全ク日

耳曼中ニ之ヲ合併スヘシ○巴勒ニハ今ニ於テ

戦鬪止マス

第五月廿八日我四月十日巴勒ノ一揆党全ク潰散シ
一ツモ此所ニ殘ル者無ク生擒枚舉ニ勝ヘス○
巴勒ノ大教長一揆ノ為メニ銃殺セラル
同三十日我四月十二日官軍巴勒ノ内ニテ大ニ殘刺ノ
所業ニ及ヒタリ日誌ノ文ニハ騷亂ノ際ニ臨ン
テ疎忽ノ濫刑ヲ行フヲ禁止シテ宜シク審判ヲ
設立ス可キヲ述ヘタリ
一揆党ノ諸首長銃殺セラル護國軍武器ヲ悉ク
取上ケラレタリ

第六月二日我四月十五日報告ニ佛国政府巴勒ヲ分
ケテ四區ト為シ兵隊ヲシテ之ヲ守衛セシメ又
軍務局ニ府中取締ノ權ヲ移シタリ○濫刑漸ク
止ムニ至レリ

同廿四日我四月六日昨夜英國下院ニ於テロルドゼ
ームス、エンヒイルド氏ヨリリーストウイキ氏
ヘノ答ヘニ往キニ魯國アフガニスタンノヘラ
ットヲ掠奪シタルヲニ付未タ一ツノ通告ヲ得
タルヲ無ク又セエール、エリイノ領地廣狹ノ事

ニ付従前魯國ト約定ヲ為シタルヲ無キ由ヲ述
ヘタリ○又下院ニテ軍制改革ノ議案ノ中金額
ヲ出シ以テ軍役ヲ免ルノ事ヲ禁止スルノ條件
ヲ採用スルトトナレリ蓋シ之ヲ可トスル者二
百三十八人否トスル者百六十九人ナリシ○仏
ク一揆党チユイレリイルウブル及ヒ其他ノ公館
ヲ石腦油ヲ以テ焚燒ス
第五月廿三日我四月五日巴勒ヨリ今日午時仏政府
ノ国旗モンマルトルニ翻リタリ○普軍巴勒ノ

一揆党ノ脱走ヲ遮リタリ

第五月廿三日我四月五日エルサイルヨリ官軍パ

レイ、ダシダヌストリ館并ニインワリツトノ病

院ヲ擣取レタリ○巴勒ノプラースド、ラ、コンコ

ルドニ於テ突戦アリテ一揆ノ総督ナルビナラ

ールドングロウスキイ手疵ヲ蒙リ此處ヲ遁レ

ントセラガ普人ニ遮ラレテ果サス

プラース、フランドム及ヒプラースド、ラ、コンコ

ルドノ炮堡ニテハ今以テ防戦ス○官軍プラ

スミルグイルノ炮堡ヲ襲ヒタリニカハ一揆党ノ勢稍ク衰ヘ今朝ニ至リ劇シキ戦争終リタリ
○一揆党コンセイイルデターノ公館ニ放火ス○
一揆ノ総督ゼ子ラールドンブロスキ官兵ノ為
メニサニデニイノ獄ニ繋ガル○今午後巴勒ノ
中央ニ當リテ恐ルヘキ破裂ノ響アリ○
リイ宮ハ全ク焼滅シタレトモルウブル宮ハ其
災ヲ免ル○英国上院ニ於テ先頃華盛頓ニテ調
印シタルアラバマ船一件ノ條約ヲ取極メ之ヲ

改メントスル説皆行ハレス

来ル六月九日我四月廿二日魯西亞帝伯灵ニ来着ス可
シトノトナリ

第五月廿五日我四月廿七日ウエルサイルヨリ昨終夜

大戦アリテ砲聲夷動ス○一揆党ノ據リタルシ
ヨウモンノ砲堡ヨリ烈シク砲撃ヲ為セリ○巴
勒ノ大火將ニ鎮滅セントス○数多ノ救火人夫
諸方ヨリ来集セリ○官軍ホテル、ド、ウイル館并
ニモオシロウジ砦ヲ掠取シテ一揆一万二千人

ヲ生擒ス○チエール氏ハ一揆党ヲ赦免スルノ
権ヲ議院ニ與ヘンコトヲ論述ス

第五月廿五日 我四月六日 倫敦ヨリ今朝チエール氏

ノ布告ニ官軍一揆党ヲ討退ケ方今巴勒ニ據レ

リ但シベルシイハ未タ全ク攻取ラレサリシト

ソ
パレイ、ロワヤール及ヒ其外ノ公館モ兵火ニ罹

レリ又ルキセンボルグ宮ハ半バ焼滅ス○一揆

党ノ屍骸巴勒街衢ノ所々ニ數多見ユ○官軍ニ

万ノ一揆党ヲ擒獲ス

○今度仏國ノ政府ニテ仏ニ在ル日耳曼軍勢ノ

費用ヲ出スニ付新ニ税銀ヲ得ントスルノ議案

ヲ同國ノ議院ニ出シタリ

○日アルサス及ヒロルラインヲ全ク日ニ合併ス

ルノ議案ヲ日國議會ニテ評議シタリ○ハアデ

ン日耳曼列ノ政府ハ將ニ外國ニ公使ヲ差送ル

コトヲ廢セントス

○支普仏戦争ノ最中楊子江ニ於テ仏人日國ノリ

イクノル号ノ高船ヲ掠奪シタル事件ニ付テ書
 信ヲ刊行シタリ○支那人ノ事ニ付キテノ報告
 ハ國民ノ驚キヲ生スルヲ多シト雖モ却テ英國
 政府ニテハ之レヲ知ルヲ少シ
 第六月九日我四月廿三日倫敦ヨリ巴勒ト郭外ト再ヒ
 往來スルヲ自在トナレリ
 仏ノ新聞紙ニシヤムボール公仏ノ旧政府タリ
 一族仏ノ王トナル可シトノ旨ヲ記シタリ
 仏政府ニテ國中ヨリ一万余ポンドノ金高ヲ借

入レントスル由ナリ又全政府ニテ絹布ノ輸入
 税トシテ其價ノ二割ヲ取ル可シト云フ○巴勒
 府ニテ猶頻リニ一揆党ヲ捕フルヲ止マス

米利堅人朝鮮へ出軍ノ事

朝鮮へ出軍ノ所置ニ付ノル、スチヤイナ、ヘラル
 ドサンハイ、ニウス、レトルナガサキ、エキスブレ
 ツス等ノ新聞ヨリ左ノ諸説ヲ撮録ス
 合衆国船隊ハ支那海ヲ廻リデル、インペーラト
 リースノ内海ニ近寄ラントシタリシニ雲霧ノ

為メニ障ヘラレテ五月四日我三月十五日ニ至リ漸ク
ロウズロードニ碇泊スルヲ得タリシカ其後
遂ニ入進シ夫ヨリパロス号船其他四艘ノ蒸氣
端船ハ進ミテ初獲ノ測量ヲ為シタルガ此測量
ニ依テイールホアゼーハ船隊ニ適宜ノ碇泊場
ト見エタルヲ以テ数多ノ船艦二十九日我四月十一日
ニ此所ニ回轉ス○三日ノ間測量船出テ還ラス
此時土人ヨリ米人ニ何レノ地ヨリ此船艦ノ来
リシヤヲ問糺スルノ書ヲ贈リタリ○月曜日ニ

第三等第五等ノ位ノ朝鮮人船中ニ来レリ総督
附ノ譯官之ヲ招待ス是レハ此者等ノ等級船將
或ハ使節ノ待遇ヲ受クヘキ上等ノ者ニ非ザレ
ハナリ儲船中ニ於テ此者ヘノ告諭ハ即チ河上
ニ測量船ヲ送ルヘキヲ及ヒ此度ノ使節ハ平穩
ヲ主トシテ事ヲ好マサレハ彼等ヨリ争端ヲ開
クヲ無レハ決シテ我ヨリ戦ヒニ及フヘカラス
トノヲ述々リレカハ朝鮮人ニハ其穩便ナル
事ヲ悦フ旨ヲ述ヘタリ○土曜日六月朔日我四月十日

四ニ於テモノケイシイ号船并ニパロス船蒸氣
端船四艘ヲ具シ午前十字ニサレ河
中ニ在ル
カンホア島マテ溯ントシテ夫々測量ノ用意ヲ
為セリ○測量方ハ都合二百人ニシテ甲比丹
ブレイキ之ヲ指揮ス○此時測量ニ出タル米國ノ
船艦左ノ如シ○モノケイシイ号船ハ船將マク
レ、士官兵卒都合百七十人○パロス号船リウ
テナント、コン、マンドル、ロックウエル之ヲ指揮シ
乗組人数五十人アラスカ号船ニ属シタル端船

リフテナント、コンマントル、チエストル之ヲ
指揮シ乗組十一人ベニシヤ船ニ属スル端船見
習士官スクロイドル之ヲ指揮シ乗組十一人
○本船コロラードニ属スル端船リフテナント
ブ、ード之ヲ指揮シ乗組十一人○同本船ノ端船リ
フテナントトウラン之ヲ指揮シ乗組十一人ナリ
甲比丹ホルム、レイブレイキ、ハパロス船ニ在リ
○出軍伴行ノ人名ニハパロス船乗組使節ラウ
氏ノ書記官コウル、モノケイシイ船乗組横濱在

留ノ寫真師ヘエート及ヒ其他二人アリ又パロ
 ス船ニハ會計方スホールジクボスウェルスロ
 セン等ノ人アリ乗組ノ者各刀劔短銃レヰング
 トン雷銃ヲ所持ス
 ベニシヤ船附属ノ端船ニハ二十四斤炮其余ノ
 端船ニハ十二斤炮ヲ具レ并ニ爆彈ガニストル
 彈スラプ子ル彈ニ至ルマテ數種ノ彈丸備ハラ
 サル無シ○儲數多ノ端船ハ列ヲ整ヘ満潮ニ乗
 レカンホーア河ニ湖リ本船パロス并ニモノケ

シイ船後ロヨリ適宜ノ距離ニ隨ヒ進ミタリ端
 船ニハ順序ヲ乱サス進ンテ河幅一里ノ場所ノ
 測量ヲ遂ケ夫ヨリ本船コロラトヲ距ル凡ソ
 十里ナル河幅狹キ場所ニ到着スルニ至ル迄天
 氣快晴ニシテ萬事差支無リシ○此河ノ左岸ノ
 高陵ニハ朝鮮ノ軍旗風ニ翻リ軍装ヲ為シタル
 白衣ノ朝鮮人ヲ遙カニ認メタリシカ船隊次第
 ニ近クニ從テ其人數凡ソ二千人許リナルヲ知
 リタリ兩岸ニハ赤色ノ巖石ヲ以テ築立タル砦

ニツアリ左岸ノ一八九斤或ハ十八斤ノ大炮六十門以上ヲ備テ巖ニ河流ノ狹曲ヲ守衛ス右岸ノ一ツハ稍小ニシテ格別恐ルニ足ラス故ニ後戦闘ノ時此所ニ朝鮮人ノ有無ヲ探ラントテ唯一二ノ爆彈ヲ放チタルノミナリ蓋シ朝鮮人左岸ニ在ル大岩ヲ以テ本據ト為シ頓テ米人ヲ驚味セシメントテ待チ構ヘタリ

端船ハ河岸等ニ着意セス頻リニ測量ノ業ヲ續テ為セリ○其時ヘニシア船ノ端船ハ誤テ糸繩

海ノ浅深ヲ螺旋器械ニ卷附タルヲ以テ後轉測ル具ナリヲ螺旋器械ニ卷附タルヲ以テ後轉シテ大ニ後レ其他ノ船岸ノ岩ノ所ニ達セシ時独リ此端船ノミハ之ヲ距ル一二里程モ後レダ

○コオル氏敵兵ノ大炮ヲ算スルニ其數三十六門以上ニ及ヘリ其他石壁ノ後ナル小山ノ側面頂上ノ軍備ヲ為サントテ無數ノ輕炮ヲ敵兵二人ツヽニテ擔運セリ此岩ノ前河辺ニ築出シタル中央ニ塹溝砲堡アリ○山下ノ河流三ツニ分レテ先南ノ辺ニ流レ斗折シテ東ノ終ニ達シ

又北ノ辺ニ流レ旋流ヲ為シテ遂ニ一定ノ水路
ナル南北ニ歸セリ○此城ハ山上ニ屹立シテ其
地勢河ノ東西ニ臨メリ○諸砦ノ河ニ築出シタ
ル位置ハ恰モ馬ノ鉄脊ノ形ニ似タリ諸諸端
船ハ次第ニ溯リシカ漲湊シタル朝水此鉄脊形
ノ曲線ニ激シテ反轉シ此ニ旋流迅湍ノ状ヲ為
ス下ヲ檢出セリ其時端船ハ蒸氣ヲ増シテ船ノ
運行ヲ容易シ將ニ旋流ニ向フタリ斯テ端船大
砦ノ下ニ至リテ旋流ニ入ラントセシ時山頂ノ

本營ヨリ不意ニ大炮ヲ二發シ夫ヨリ引續キテ
大炮七十挺ヲ連發シ其大炮ノ中最大ナル者ハ
蓋シ古製ノ二十四斤ノ長炮ナリ小ナル者ハ壁
砲ニシテ即チ短砲ナリ○端船ハ大砦ニ近寄リ
タルヲ以テ最モ烈シク打掛ケラレタリ扱大砦
ノ大砲ヲ尽ク發シ終ラサル内ニ月城ヨリモ眼
下ノパロス船ニ向テ數多ノ炮發ヲ為シタル時
端船ハ急潮ノ為メニ流サレシカトモ之ニ懼レ
ス敵砲ニ答ヘホウツルヲ以テ敵砦ヲ攻撃シタ

リシカハ其彈丸臺場ノ上ニ落キ破裂スル勢ヒ
 猛烈ナリシ頓テ本船ハロスニテ二十四斤砲ヲ
 打出シモノゲシイ八インチノ爆彈ヲ放チタリ
 シカ其時ニハ最早敵兵支ヘ難シテ支那風ニ植
 テ山上ニ齧リタル小旗ヲ携ヘテ其本陣ヲ引退
 キ山谷森林等ニ隠レタリ時ニ測量船ハ敵ノ砲
 堡ノ有ル所ヲ經過シテ其地ノ東方ニ在ル漩流
 并ニ砲堡ノ後辺ニ廻リヌ
 諸端船ハ爆彈ヲ放テ進入セシカ其效驗實ニ驚

クヘキ事トス

此戦ニ出タル者ノ中年来砲術ヲ实地ニ經驗シ
 タル人々ノ言ニ朝鮮人ノ砲若ヨリ初メノ間打
 掛ケタル如キ烈シキ砲戦ヲ未タ知ラスト然ル
 ニ米人其害ヲ免レタル所以ハ全ク彼ガ砲術ノ
 不熟ナルト彈丸ノ粗悪ナルトニ依レリト○諸
 諸端船ニハ傷人二人ヲパロス船ニ移シ置キ其
 ヨリ急潮ニ乗シ前進セシ時尚又山谷ニ隠レ居
 タル敵兵ニ向ヒ頻リニ放發セシカ敵兵之ヲ支

フルト能ハス終ニ敗走シタリ
 海軍總督ロセルス測量方出船前ニ各人ニ語り
 ケルニハ朝鮮人ヨリ汝等ヲ打掛ルニ非スンバ
 決シテ炮發スルト勿レ若彼等ノ炮發スルト有
 ルニ於テハ其時コソ聊カ猶豫ス可カラストナ
 リ又敵ヲ追テ上陸ス可キノ命無キニ因リ甲比
 丹フレイキ敵兵ノ敗北ヲ見ルヨリ直ニ端船ヲ
 シテ河曲ヲ廻リテ戦争ノ處ヨリ少シク進ミテ
 碇泊セシメリ

戦争中味方ノ変事ハ唯アラスカ船附属ノ端船
 ノミニ在リ水夫一人ホウツル炮ノ口ヲ敵ノ方
 ニ向ケ居タリシガ不幸ニシテ敵ノ彈丸ニ頭ト
 肩ノ脇トヲ打レタリ又其他一人ノ水夫ハ一大
 炮ノ反轉ニ依リテ手指ニツヲ打切ラレタリ蓋
 シ朝鮮人ノ烈シキ發砲ニ於テ斯ク僅カノ損失
 アリシハ實ニ異ム可キ事トスサレド端船ノ勝
 利ヲ獲タルハ敵兵大炮ヲ余リ高ク向ケタルニ
 依レリ○炮船并ニ端船共ニ多少ノ彈丸ニ中リ

タレドモ幸ニシテ何レモ劇ク打レタル者無○
諸端船ハ彼河ノ鉄沓形ナル處ヲ廻リシ後朝鮮
人再ヒ發砲シ又時機ヲ伺ヒ損所ノ為ニ後ニ残
リタルベニシヤ船附属ノ端船ヘモ發砲シタリ
時ニ見習士官スクロールドルハ敵ノ發砲ヲ物ト
モセス水路ヲ急キテ同行ノ船隊ニ合セントシ
敵兵ノ發砲スル毎ニ是ヨリモ徐カニ炮發シテ
河流ヲ廻リシカ幸ニシテ其船少シモ害ヲ蒙ル
事無リシ

水師提督ロゼルスハ諸人ノ武勇ヲ賞シタリ○
船中ノ衆人皆上陸シテ敵ノ砲門ニ釘ヲ打附ケ
敵將ノ旗ヲ取歸ラントテ水師提督ニ乞ヒシカ
トモ元ト今度ノ一件ハ戦ヲ眼目ト為スニアラ
ス專ラ測量等ノ目的ヲ達セントスルニ在レハ
水師提督之ヲ許ルス事無カリシ○敵ヨリ烈シ
ク發砲シタレトモ僅カニ五分時乃至八分時程
ニシテ之ヲ止メタリ蓋シ其間敵ヨリ放發シヤ
ル彈丸ノ數二百五十ヨリ三百ニ至ル可シ又測

量船ヨリハ之カ砲發ニ答ヘテ破裂彈丸及ヒス
ラア子ル彈百五十箇ヲ打出シ大ニ敵ノ砦ヲ打
破リタレハ朝鮮人之ニ辟易シタルナル可シ

朝鮮二度目ノ戦争

第六月二十八日我五月十一日香港日刊新聞ヨリ

抄譯ス

朝鮮ニテ再ヒ戦アリ米利堅ノ兵船タンホワノ
砲台ニ至リシ時此砲台ヨリ發砲シタルニ付キ
米人之ニ答ヘテ發砲シ烈シキ戦ノ後終ニ其砲
台ヲ攻取リタリ此戦ニテ米ノ士卒死人三人傷
人六人朝鮮人ノ死人二百四十人傷人亦数多
リ此戦ノ後米人再ヒ兵船ニ戻リタリト云フ精

シキ事ハ未ク知レス

海外新聞四十八号終

海外新聞四十九號

千八百七十一年第六月二日 我四月十五日 桑西斯

哥刊行每週新聞ヨリ抄譯ス

教化中ノ暴行

當今巴勒ノ一揆平治シ大火漸ク鎮滅セントス
故ニ府内摠テ平穩ニシテ唯戦争ノ為ニ難澁シ
タル者ノ救助トシテ日々ニ数多ノ資糧ヲ搬運
シ陸續絶エサルノミナリ
仙普トノ戦争ノ後一揆党ノ其国ヲ乱略セシ如

キハ実ニ當千八百年代ニ比類無キ兇暴ニシテ
之ヲ彼等カ惡業ノ結尾トス○當時一揆党府中
ヲ紛理スルノ權無ク却テ之ヲ敗滅セントス○
一揆党暴動ヲ極メ教長僧徒質人ノ嫌ヒ無ク之
ヲ殺戮シ尚婦女子ニ至ル迄焚燒スル家室ノ中
ニ拘執シ置キ若シ其逃去セントスル時ハ銃槍
ヲ以テ之ヲ遮却セリ實ニ府内兩三日間ノ所為
其殘虐ナルト言語ニ絶シ夷狄ニモ過タリト謂
ツ可シ○官軍ト戦ヒタル一揆党其數二千人ニ

及ヒシガ世界第一ノ大都會タル巴勒ヲ保護シ
テ諸百工技ヲ盡シタル諸物ヲ存有セントスル
ニ注意セル者一人モ無ク却テ彼等ノ目的トス
ル所ハ已等カ從來居住シタル都府ヲ敗滅セン
トスルニ在リ遇報國ノ義士アリト雖モ其志ヲ
遂タル能ハス真ニ教化中ノ兇暴ト謂ツ可シ○
巴勒ノ教大長并ニ僧徒六十九人一揆党ノ為ニ
銃殺セラル○官軍ノ戦死殆ンド三千人一揆党
ノ戦死ハ凡ソ之ニ十五倍セリト

第五月二十四日 我四月六日 巴勒ヨリ今日午後第五

字ニ於テブエルサイルヨリヲピラ、ハウス 劇場名

ヲ擾有シタリケレハ此處ニ集者堵ノ如クニシ

テ男女皆手ヲ拍テ狂喜シ其中ニ在ル官兵ニ酒

或ハ銀ヲ寄贈セシトゾ

第五月二十四日 我四月六日 ゴルサイルヨリ一揆党

二人ノ首長レラシレガルトナル者銃殺セララル

○教大長ドウホア質人十人僧凡ソ五十人許リ

メギアノ牢内ニテ自若トシテ死ニ就キシトナ

リ○今日一揆党ノ諸首長検査ノ上銃殺セララル

○千エル氏ヨリ左ノ廻章ヲ布告ス○自今余カ

輩ヲ以テ巴勒ヲ妨治スル者ト心得ヘシトソ○

ルウブルハ火災ヲ免ルドオルセイハ焼失ス○

往ニ一揆党ノ囚虜一万二千人ナリシカ其数忽

千二万ニ及ヒタリ

第五月廿五日 我四月七日 ブリュセルヨリ比時利ノ

議會ニテ執政パロンドアウカル氏ヨリノ布告

ニ巴勒ヨリ同国へ逃来ル一揆党ノ奴僕ヲ公ケ

ニ脱走人ノ所置ニ為サリシトナリ

五月廿五日ブリュセルヨリ倫敦ノ報告按萃巴

勒最尾ノ報告ニ曰ク盧森堡宮半ハ焼失スパレ

ユス、ロヤール宮今ニ於テ鎮火セズ○ホテルド

ファイル館并ニ北方鐵道極處ノ辺ニテハ戦争未タ

息マサリシト○元帥マクマホン參謀ト共ニプ

レエスブアントムニ移リタリ

五月廿五日紐育ヨリ或ル特報ニハ昨日巴勒ノ

最モ恐ロシキ事情ヲ委ク論シタリ

トリビュン新聞ノ報告ニ曰クボルファルトオ

ームン及ヒフウポルグサン、ウーノオルノ戦争

甚タ劇戦ナリト○人家ニ敵味方ノ死傷人充満

セリト○會計局未タ鎮火セス○パレエス、ロキ

セル宮ハ唯四壁ノミ焼残ス○ホテルドブイル館

近傍ノ戦争特ニ劇戦ニシテ今ニ於テ石腦油ノ

為メニ焼カル○仏国ニ建設シタル英国ノ欽差

館損害セラレ附属記録所亦焼失ス○ブレエス

ドラ、コンコルド宮破滅ス○官軍府中ノ住民ニ

シタ新聞 四ノ
懇切ヲ尽シタリ○府中街衢火災ニ罹ラサル無
シ○官軍北方火輪車ノ驛站ヲ掠奪ス○ルウ、ラ
ズトノ頂上ノ砲臺ヨリ巴勒ノ爆撃猛烈ナリシ
トゾ○水曜日トリビユン新聞ヲ報告ニ今朝官
軍ブレユスブアンドムヲ掠取ス○一揆党ルウ
サンウーノオルニ堅固ニ扱任ス○一揆党パレ
エスロヤール宮ヲ退去放火ス
フレエスブアンドム落去ノ後一揆党チイルレ
リイ宮ヲ掠奪シ難キヲ以テ石腦油ヲ灌キ放火退

去セリ○東フウゲルグスニテ一揆党鬼神ノ如
ク奮戦シタリ○巴勒ノ男女各騒乱ノ平定ヲ祝
シテ勸喜踊躍セリ又仏国従前ノ国旗諸方ニ翻
レリ○一揆党ノ首長ヲ捕虜スルヲ始リ邏卒家
屋房舎地窖ノ差別ナク嚴密ニ探索シタリ
土曜日ノ夜ブルサイルヨリゼ子ラールウ井ノ
ア己ニ一万ノ一揆党ノ防禦シタルブレエス、ペ
ルブイルヲ侵掠シ殊ニ劇戦ナリシトゾ○官軍
ベルチヲ侵掠シグットコオモン河ノ一部ニ槁梁

ヲ架シタリ○ベエルブイルノ殘党巴勒ニ向テ
石腦油ノ爆彈ヲ放發セシガ官軍此地ニ運行セ
リ○レフロ氏ヨリ議院ヘノ建白ニ一揆党カアロ
ン郡ブウトヲフカウモンラシヤペルグイレツ
ト、ノニモンタンベエルブイルニ担任スルヲ
述ヘタリ

来ル火曜日ニハ一揆党平定ス可シトゾ○官軍
石腦油ヲ携タル婦人ハ悉ク之ヲ捕テ禁錮ス官
軍ルウ、メニモンタンノ一揆党ヲ十分ニ取囲シ

ナラン○官軍ベエルブイルニ於テ大砲一門赤
旗二十二旒ヲ掠奪ス

月曜日一軍務局ヲ叔開ス○ベエチイノ監牢ニ幽
閉シタル一揆党再ヒ騒立チ多ク銃殺セラル○
外国事務執政フアブル氏諸外国公使等ノ許ニ達
スル書翰ニ曰ク仏国ニテハ一揆党ヲ犯罪人ノ
處置トシテ公然ノ敵ト為サザル由ヲ辯述セリ
尚同人ヨリ隣国ニ頼ミテ一揆党ノ脱走者ヲ捕
縛センヲ乞ヘリ既ニ西班牙ニテハ許諾セシ

トナリ

火曜日ノ夜サンデニイヨリ當今戦争無シ他国ノ救火人夫来着ス火势稍ク衰ヘタリ○ブエルサイル火輪車脩造場焼失ス○官軍カアロンノ一揆党ヲ驅逐シペエルブイルメニモンタンヲ取囲ミタリ

第五月廿六日 我四月八日
ブルムウフラルトノ一揆鎮定シ囚虜六千人アリ
○一揆党令ベルブイルコフモンニ於テ擱住シ此

處ヨリ巴勒ニ向テ石腦油ノ爆彈ヲ發放ス○一揆党ブルアモルウブル子ルリゴードムブロス
キブウケエー等銃殺セラル○ビヤードスクル
ウクルウセルノ禁錮ノ事未定ナリシトゾ○質
人悉ク無難ナルトノ風説アレモ未ダ確報ヲ得
ズ○ゼ子ラールマクマホンヨリノ最尾ノ報告
ニ武器ヲ携ヘタル一揆党ハ即時ニ銃殺ス可シ
トナリ
同月同日サンデニイヨリ今日官兵地窖ノ中ニ

石腦油ヲ灌キ放火セント企タル許多ノ男女ヲ
駭シテ之レヲ銃殺セリ○一揆ノ殘党パンチイ
ノ方ニ逃遁センヲ企テレガ官軍之レヲ追撃
シテ殘酷ニ殺戮セリ

第五月廿七日我四月九日紐育ヨリ火曜日ノ夜サン
デニ一ヨリノ報告ニ驚クベキノ大火アリ今ハ
人カヲ以テ消防シ難シ唯即夜自然鎮火セン
ヲ希望セリト○巴勒ニハ倫敦救火隊ノ如キ者
未ダ之有ラズ○普軍ハミエルズルニ逃レント

シタル一揆党ニ向テ發砲シ之ヲ追卻セリ

同月同日倫敦ヨリノ報告ニ巴勒府内ノ家屋或

ハ地窖ノ中ニ隱匿シタル一揆党五萬有餘ナリ

シガ殊ニ婦人嬰兒多シト○府中ノ地所其外諸

品物ノ壞滅スル甚ク夥多ニシテ巴勒ノ四分ハ

全ク破滅ス

同月同日左ルサイルヨリ今朝官軍ミエルズイ

ルヲ攻撃シ同時ニモンマルトルニ發砲シペエ

レイル遺文ス官軍ノ戦死千二百人一揆党ノ方

屈指ニ勝ヘス○日曜日ノ後囚虜三萬ニ及ビリ
其中悪言穢行ヲ為シタル婦人幾許カアリ○賊
將コンレツト捕虜セラレ自ラ毒藥ヲ飲ンテ死ス
○ロツチホルト并ニエシイノ兩人民政裁判所
ニ於テ犯罪人トシテ検査セラル
弘利時ニ於テ仏國脱走ノ一揆党ヲ捕ヘ置キ其
由ヲ仏國政府ニ通告シ其沙汰ヲ待チタリ○ブ
レエスド、ラ、コンコルドノルウキ、ル塔無難ニ
シテ塑像ノミ破壊セラル○官兵一揆党ヲ捕ヘ

一次ニ殺戮シタリ○六千ノ一揆党一度ニ降レ
リ○一揆党ホダベルズルベルラシヤメニモン
タンメーザニ居住ス
同月同日ズルサイルヨリ官軍總督ノ一人ゼ子
グーレルロイ今日ノ戦争ニテ殺サレタリ○チ
エル氏ノ面章ニ是迄ノ官軍ノ動作ヲ委細ニ述
且ツ彼等ガ勇氣ヲ厚ク賞シタリ○日曜日ノ朝
官軍ズエルズルノ山中ニ在ル一揆党ノ最後ノ巢
窟ヲ襲撃ス可シ

チエール氏一揆党ノ官軍ヲ毒殺セントテ數多ノ
毒藥ヲ集メタル罪状ヲ鳴ラシテ之ヲ罰シタリ
第五月廿八日我四日月左ルサイルヨリ今朝第九
字ニ一揆ノ殘党遽クニ降参ス
同月同日巴勒ヨリゼ子ラールラドミロウレ、ブ
ウト、カフモンメニモンタンヲ侵掠ス復タゼ子
ラールブイノーニハバアラシヤノ塚ヲ府中ニ
移シタリ
日曜日ノ夜巴勒府外ノ報告ニ府中大ニ鎮静ス

今朝第十字後ニ至ル迄一ノ砲發モ無シ大火全
ク鎮滅ス○ロシヤンビイルニ於テ普軍一千ノ
囚虜ヲ獲タリシカ其中ニ武器ヲ裝ヒタル許多
ノ婦人アリ
○火曜日ノ夕ニ降参ノ一揆党ノ武器ヲ殘ラス
取上ケ番兵ヲ以テ之ヲ警固セリ
第五月廿九日我四日月巴勒ヨリヘエルブイルノ
ニモンタンバアラシヤノ戦ヒ殊ニ乱戦ニ
シテ婦女子等狼狽シテ身ヲ容ルノ地ヲ失ヘリ

○軍事ノ取締漸次ニ発行セリ ○レヤンブド、
 ルスバク、ウー、モン、スウホテ、ルド、バイルニテ一揆
 党ノ誅戮始マリ一時ニ銃殺サレタル者五十人
 ヨリ百人ニ至レリ ○マクマホンノ印鑑無キニ
 於テハ一人モ出行スルヲ許サス ○放火賊徒
 ヲ警防スル為ニ地窖其外空屋等ヲ嚴密ニ鎖鑰
 セリ
 五月廿九日紐育ヨリノ報告ニブルサイルノ
 報告ニ一揆党ノ軍務宰相ドルスクルウス去ル

日曜日ノ夜ニ密カニ遁逃センヲ企テタリレ
 カ番兵ノ為ニ打レテ即死ス ○當週日ノ間一揆
 党ノ首長ヲ穿鑿スルヲ甚嚴シ ○ペルブル及ヒ
 ベユラシヤースノ戦争殊ノ外劇戦ニシテ死傷
 多カリシカ日曜日ノ夜ニ官軍遂ニ之ヲ抜イテ
 批有シ大勝ヲ奏シタリ 昨朝官軍一揆党ノ占拠
 シ去ラサル一部ニ進撃セシニ賊徒直チニ白旗
 ヲ掲ケ残り無ク降服シタルヲ以テ武器ヲ悉ク
 取上ケタリ 此ニ至テ千八百七十一年巴勒ノ大

反逆ノ徒党盡ク滅シタリ
元帥マクマホンノ引率シタル三十八レビメン
トノ官軍意氣揚々トシテペエルサイルニ凱旋
シ兵士ハ各銃口ヘ花枝ヲ挿テ一揆党ヨリ掠奪
シタル華麗ノ旗幟ヲ携歸レリ

海外新聞四十九號終

海外新聞五十号

千八百七十一年第七月廿四日我六月七日横濱
刊行ジヤパンヘラルド新聞ヨリ抄譯ス

第六月廿二日我五月五日倫敦ヨリポスト新聞ニ曰
ク日耳曼墺地利魯西亞ノ三國俱ニ悞同シテ歐
洲一般ノ治安寧靜ヲ保守セントテ別段ノ友誼
ヲ結ヒタリ

第六月廿二日我五月五日巴勒ヨリ月曜日ニ於テ國
民ヨリ題助ノ借銀ヲ以テ始メテ政府へ上納セ

同月同日馬德里ヨリ西班牙國會ニ於テ殖民事務執政ヨリノ布告ニキユバ島ノ人民西國へ往來スル間ハ當國ニ於テ互シク此島ノ永遠無事ヲ保護ス可レトナリ

同月同日華盛頓ヨリ合衆國朝鮮ノ行軍ニ付キ香港ヨリ本國ノ海軍局へ此頃傳信機ヲ以テ報告ヲ為レタリシカ其入費實ニ夥多ナル可レ支那海ヨリ桑西斯哥へ航海ノ飛脚船ノ持來レ

ル次田、新報ヲ各待居タリ

第六月廿一日我五月モントゴメリイコラハ

府ノ都ヨリ總督アエルジニヤノモウリイアラバ

マ大學校ノ頭目ニ選マレシ由ナルガ蓋シ拜命スベシ

第六月廿二日我五月紐育ヨリ巴勒ノ二十三街

衢ヲ紗フル禮拜堂ニ於テ同府ノ教大長テルボ

アヲ始メトシテ其餘戰死人ノ亡靈ヲ祭リタリ

同月同日巴勒ヨリガムペツタモルタ地中海ノ名

居住ス巴勒、脱走人此処へ到着セシカ其中
ニセントラル、ル、コンミツテ、ス、イン、テル、ナ、シ
ヨ子、ル、ソ、ヤ、イ、チ、イ、ノ、者、アリ

第六月廿三日我五月巴勒ヨリチエル氏ヨリ惣

レジメントノ兵士ニ彼が著述ノトストリイ、ヲ

フ、ゼ、レ、ウ、リ、ウ、シ、ン、エ、ン、ド、イ、ン、ス、イ、ル、改革ト云

書籍ノ草稿ヲ示シタリ○グ、エ、ル、サ、イ、ル、ニ、放、ラ

自由互市會社ノ起シラフン、レイ氏之ガ頭目トナ

リタリ

第六月廿二日我五月倫敦ヨリ廢帝拿破崙ドウ

ブル美國ノ中マインヘエードト云地ニ居住スト

ナリ

同月廿三日我五月紐育ヨリ仏國共和党ルイプ

ラン氏ノ書翰ニ是迄兎戯ニ等シキ共和党モ自

後確乎不拔ノ者タル可キノ由ヲ述ヘタリ

ラ、リ、ベ、ル、ド、新、聞、ニ、昨、日、巴、勒、ノ、遊、步、場、ブ、ウ、ブ、エ、ル

スニ於テ仏人ト普國ノ或士官ノ間ニ争鬪起リ

タルヲ以テ元帥マクマホンヨリ普ノ軍務惣督

ニ向後兵士ノ府内ニ入来ルヲ禁センコトヲ頼ミ
 タリ○今度ブルサイルニ送ラレタル一揆党ノ
 囚虜中ニ美麗ノ衣服ヲ着シタル男女衆多ナリシト
 同月同日ブリュセルスヨリ今日比時利ノ執政タ
 ナザンヨリ同国議院ヘノ建白ニ是迄聞及ヒタ
 ル巴勒囚虜ノ内百六十五人ハ比人ナリシ由ヲ
 述ヘタリ
 同國政府ニテハ別ニ右ノ赦免ヲ要メスト雖モ
 唯公平至當ノ査照有ランコトヲ待チタリ

第六月廿四日我五月七日巴勒ヨリ府民等舉テ市中
 ノ貧困ヲ歎願シテ大ヒニ混雜ヲ為シ救濟ノ惠
 ヲ受クル者総計二十四万人ニ及ヘリ○諸職百
 エハ其業ナクシテ徒ラニ其日ヲ送レリ
 同月同日紐育ヨリ伯灵ヨリヘラレド新聞社中
 ヘノ報告ニ方今日英ニ國ノ間ニ容易ナラサル
 難事起リビスマルク氏ト英國外務執政ガラシ
 ブイル氏トノ書翰ノ往復頻々ナリレドソ○然
 ルニ普國政府ニテハ別ニ一ツノ告諭モ無リシ

ガビスマルク氏ヨリ倫敦在留ノ日國公使等へ
ノ書翰ニ當今日國政府ニ於テ英國ノ所領ヘリ
ゴラント北海中ノ島ニシテ往ニ英人健馬ヲ買
ヒ受ケンコラ同人英國ニ通告セシガアールダ
ラシブイル氏ヨリノ答ヘニ英國ヨテハ固ヨリ
ヘリゴラントヲ手放スヲ好マス故ニ政府ニテ
モ亦タ之ヲ兼引スルコト無シ之ニ由テ再ヒビス
マルク氏ヨリコオントペルンストフヲ以テ日
國ニテ此地ヲ需要スルノ次第ヲ述ヘ告ケテ曰ク

元來日國ノ此地ヲ懇望スル所以ハ他ニ非ス此
島ノ位置形勝ナレハ佛國船隊此処ニテ石炭ヲ
積込ミ尚之レヲ占拠ノ地ト為シ其ヨリハムス
ルガヲ取圍ムノ患アリ且此地日國ニ接近シタ
ルヲ以テ之レヲ日耳曼ノ屬國トスル時ハ大ニ
國ノ便利ニシテ外國ノ所轄ニ在ルニ於テハ日
國ノ障礙トナルコト少ナカラサルニ依レリト
ルクラントファイルノ再答ニ英國ニテハ唯自國ノ
利益ヲ計ルニ在ルノミ更ニ他國ノ利害ヲ顧ル

毎ト斤月 五 五

ニ暇無シ加之ニ日國ノ強テ之レヲ需要スルノ由縁無シ注時ヨリ一ツモ日國ノ之レヲ管治シタルノ無ル可レトナリ

第六月廿四日我五月七日倫敦ヨリブルサイルノ共和政府ノ政綱再張ノ後已ニ普國トノ條約濟ノ償金第一ノ定數ヲ進納ス可レトノ切需アル可

レ
同月同日巴勒ヨリ仙國ニ於テ爾後上等聽訟院ノ設立アル可レト○ハトレ新聞ニ曰ク一揆党

ノ酋長ロツテホルトエシイルウスクウベ等ノ鞠問撰拳事件ニ付二次ノ遲延ニ及ヒタリ○アレペルト、シヨレ一ナル者ロツテホルトヲ專ラ支保ス○セイノ知府コウセン國民ノ安穩ヲ得セシメントシタル共和政府ノ補助トシテ用金ヲ上納センヲ人民ニ懇望セリ○ガハベツタ共和政府ニ事ノヲ建言ニ及ヒタリ
第六月廿五日我五月八日馬德里ヨリ西班牙ノ元帥セルラノ新タニ改体ヲ創定スルノ權ヲ委任セ

ラル、ヲ以テ各其支業ノ大成センヲ希望セ
リ

同月同日リスボンヨリ今朝ブレゼシルノ皇帝都

府ヲ出テ仙国ニ向ヒテ発足ス○右皇帝皇后ト

共ニベエヨン仙国巴勒日耳曼英蘭以太利ニ到リ

来ル二月中帰国ス可シ

同月同日方令仙国ニ於テ普国ノ兵制ヲ採用セ

リ

第六月廿七日 我五月十日 フロレンスヨリ国王七月

一日ニハ羅馬ニ到ルヲ之有ルマジ且ツ遷都モ

其當日ニ有サル可シ蓋シ此事九月一日ヨリ始

ル可シ○公使局ニテハ右遷都ノ事成功ス可シ

ト思フ者之無シトゾ

第六月廿八日 我五月十一日 孔士但丁ヨリ土耳其ヨリ

仙国ノ内乱ニテ鰥寡孤獨トナリタル者二十万

フロフリンヲ貨幣名寄贈シ惠メリ

英国外務宰相オアルグラニビル氏ヨリ合衆

国政府ヘ、陳言ニ其國人分外ノ海関税銀ヲ取

聚ルコトヲ廢セサル時ハ却テ國ノ不利ヲ招クノ
 基ナルコトヲ疾ク知得タルコトハ尤余等感服スル
 所ナル由ヲ述ヘタリ○彼同君ヨリ前政府ノ其
 國債ヲ皆濟シタル其功用ノ著レキヲ厚ク賞シ
 遂ニ二國互ニ信義ヲ守リ尚和親ヲ固センコトヲ
 專ラ希望セルトノ由ヲ布告ス
 一揆ノ殘党今ニ於テ檄文ヲ諸方ニ散布ス尤モ
 密事ノ出板ハ悉ク之ヲ取上ラレタリ○今日外
 務局ヘ上海ヨリノ報告ニ米利堅人朝鮮ニ勝利
 サンハイ

ヲ獲クリレトガ

同月同日巴勒ヨリ題助ノ借債稍々完全ニタリ
 ○許多ノ農夫僕徒等已ノ貯金ヲ以テ題助ト爲
 レタルカ殊ニ僕徒ヨリ得タル借銀ノ高數倍セ
 レトソ
 同月同日巴勒ヨリ蘇士鑿開ノ地ニ沙石尤ニ夥
 シク充滿スルヲ以テ土耳其ニテ鑿開會社ノ者
 ヨリ之ヲ買求メンコトヲ周旋セシカ埃及ニテ
 許諾セカリレトナリ

○普国ノ太子并ニ公主當秋倫敦ニ来問セシ
ヲ待チタリ

今日合衆国農務ノ委任官ホニホラスケブロン
八月一日迄ニ辞職センコトヲ欽差全権ニ建言セ
リ其故ハ去ル六ヶ月前ニ日本ニ渡リタル或ル
官員ヲ以テ日本政府ト條約ニ及ヒ此人日本へ
来リテ農務ヲ始メ百工ノ方術ヲ導キ開カント
ス此人農業其他百工ノ器械并ニ鍊道諸要品ノ
模範ヲ造出スル等ヲ専ラ任シタリ右農學士ト

共ニ来ル可キ學者ノ中ニ地質土工ノ二科ヲ修
メタル一人ノ學者アリ斯ル學士ヲ日本へ差遣
ス事ハ向後日本大事業ヲ成就ス可キ先導ニシ
テ實ニ日米兩國ノ一大重事ナリト欽差全権并
ニ政廳一般此舉ヲ祝シテ此人ヲ恭敬セシトナ
リ

桑西斯哥每週新聞ヨリ抄譯ス

仏国政府ノ官員次第ニブルサイルヨリ巴勒ニ
歸着シタルニ依テ再ヒ此処ニテ國會ヲ開ク可

〇上等官員選舉ノ事ヲ報スル毎日、傳信機
 ニ國中數種 黨輩各向後ノ政基ヲ決定スルニ
 於テ其智カラ試檢^{タス}セニトス若シボルボン家党
 オルレア^ン家党ト合併一体トナルヲ有ラハ右
 立主党不測ノ人望ヲ得ルニ至ル可シト〇巴勒
 布告文ノ語氣ヲ推考スル時ハ拿破崙党ノ者ハ
 格別ノ人望無ルベシトゾ
 第六月廿六日^{我五月九日}巴勒ヨリ今朝ガム^{ペン}タ同
 府ニ到着シ再ヒ出立ニ及ヒ此者ニハ或ル一郡

ヨリノ代人トシテ出席ス可キ命ヲ受ケタリト
 ゴ

海外新聞
三十一

海外新聞五十號畢

御用御書物所

東京本町四丁目

紀伊國屋源兵衛

